

《酪肉複合経営を活かした山形牛生産プロジェクト》

市町村	中山町	対象地域	中山町全域	分野	畜産
実施主体名	小松文太郎	代表者氏名		住所又は主たる事務所の所在地・連絡先	中山町
実施主体構成	個人				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	129,600千円(112,608千円)					
	独自の目標項目	肥育牛出荷頭数の増頭 受精卵移植による和牛子牛を生産し自家産の山形牛を生産 稲ワラ収集面積を拡大し肥育牛の粗飼料完全自給					
各年次目標	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）	
	産出額	16,992千円	29,700千円	56,700千円	105,300千円	37,800千円	129,600千円
	独自の 目標項目	肥育牛出荷頭数 うち()内は自家産	33頭	63頭	117頭	42頭(8)	144頭(17)
	稲ワラ	25ha	30ha	30ha	30ha	30ha	
プロジェクト 概要	◎実施方針	受精卵移植による和牛子牛を生産し、山形生まれ山形育ち（自家産）の山形牛の生産。 地域資源を有効利用しての安全・安心の山形牛生産、経費削減による所得増大。 地域に根ざした魅力ある経営を目指す。					
	○産出額の増大	112,608千円					
	○雇用の創出	規模拡大により、雇用(延べ365人日/年)。稲ワラ収集時70日×7人=490人・日。新たに、年間のべ855人・日の雇用の創出					
	○創意工夫	自家堆肥を還元した減農薬・減科学肥料の稲ワラを与えて生産した安全・安心の山形牛の生産。 低コスト生産（部分一貫経営、粗飼料完全自給、濃厚飼料自家配合）による所得増大。					
	○実現性	水稻農家と畜産農家からなる中山町堆肥利用組合や、受精卵移植支援事業による町ぐるみでの事業であるので町の米農家、技術の高い獣医師の協力が得られ、実現性が高い					
	○地域への波及効果	堆肥還元による循環型農業の実現。特に堆肥利用組合を発足し計画的で確実な事業の実行は地域のモデルケースとなり波及効果が高い。					
	○その他						

事業 計画		実施年度（平成22年度）	実施年度（平成23年度）
	事業内容	肥育素牛導入70頭 粗飼料生産拡大10ha→25 ha 牛舎建設	受精卵移植による和牛子牛を生産 粗飼料生産拡大25ha→30ha